

①東京家政大学 リハビリテーション学科作業療法学専攻 カリキュラム概念図

学部名	健康科学部	学科名	リハビリテーション学科	専攻	作業療法学専攻
-----	-------	-----	-------------	----	---------

【育成する人材】

- ①生命の尊重と人格の尊厳及び豊かな人間性に基づき、社会のニーズに対応できる質の高いリハビリテーションサービスの実践力を有する
- ②チームの一員として協働する能力を有する
- ③専門職業教育に求められる科学的根拠に裏づけされた専門的知識・技術・態度及び主体的学修能力を有する

【育成する作業療法士像】

リハビリテーション学科は、その人らしく生活することができるよう生活の再獲得を支援するために、生命の尊重と人格の尊厳及び豊かな人間性に基づき、社会のニーズに対応できる質の高いリハビリテーションサービスの実践力を有する専門職者を育成するものである。さらに、保健医療福祉の発展と向上に貢献できる人材を育成することを目指している。作業療法士の人材像は、“こころ”と“からだ”と“生活”に障がいがある子どもから高齢者まで、その人らしく生活することができるよう生活の再獲得を「新しい生き方」の獲得支援できる作業療法実践者である。



アドミッションポリシー

(1)知識・技能
あらゆる年代の人たちと信頼関係を築くために必要不可欠なコミュニケーション能力の基礎となる『国語』と『英語』、多くの情報から正確に問題点を抽出するための論理的思考を育む『数学』の基礎を身につけている。さらに生命活動の本質を追求する上での基礎となる『生物』や『物理』、『化学』等の科目にも関心がある。

(2)思考力・判断力・表現力
物事の本質を捉え、筋道を立てて論理的に考え、根拠に基づいて判断し、課題を解決できる。さらに他者の意見を尊重しつつ自分の考えをわかりやすく伝えることができる。

(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
保健・医療・福祉に興味や関心を持ち、人に関わる現象を探索するために自ら行動を起こすことができる。さらに多様な考えやチームの中での個人の役割を理解し、協働して課題解決に取り組むことができる。

カリキュラムポリシー

【教育内容】

「基礎教養科目」
・豊かな教養、コミュニケーション能力の育成、人をさまざまな視点から理解するために、＜コア科目＞、＜人間と社会・文化＞、＜人間と自然＞、＜人間と情報＞、＜人間と言語＞に区分した基礎教養科目を配置します。

「専門基礎科目」
・人の運動・行動を解剖学、生理学、運動学、発達学的観点から分析考察ができる能力とリハビリテーション専門職として必要な医学的知識を修得するために、＜人体の構造と機能及び心身の発達＞、＜疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＞、＜保健医療福祉とリハビリテーションの理念＞に区分し、該当する科目を配置します。

「専門科目」
・専攻ごとに基礎作業療法学、＜基礎理学療法学＞に区分し、該当する科目を配置します。

・科学的な根拠に基づいた評価及び各種疾患、障害に対応できるように専攻ごとに＜評価学＞、＜治療学＞、＜管理学＞に区分し、当該科目を配置します。学内演習では、一部にOSCE(客観的臨床能力試験)を用いて評価技術を高めます。

・保健・医療・福祉チームとして、連携・協働を図りながら、地域住民の健康増進及び障害予防の考え方ができるように『地域作業療法学』『地域理学療法学』『地域保健マネジメント学』を2年次・3年次に配置します。

・学内で学んだ知識と臨床での経験を統合できる機会として、対象者との人間関係の構築、施設内外における多職種連携の構築を経験し、将来の人間像を形成する場として、『臨床実習Ⅰ』を3年次に、『臨床実習Ⅱ』を4年次に配置します。学外実習では、クリニックラークシップ(診療参加型)を実施している施設もあるため、学内においても対応できる教育を行います。

・専門職としての基盤となる科学的に論理する思考力、自己研鑽力を身につけるために、『研究法』を3年次に配置しゼミナール形式で進めます。『作業療法セミナー』『理学療法セミナーⅠ』『理学療法セミナーⅡ』及び『卒業研究』を3年次・4年次に配置します。

基礎教養科目	1年次 作業療法士としての意識を養う		2年次 疾病と作業療法の基礎知識を学ぶ		3年次 作業療法の実践を学び、経験する		4年次 臨床を経験するとともに研究法を学ぶ			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コア科目	スタートアップセミナー		キャリアデザイン							
人間と社会・文化			生命倫理、多文化理解、医療経済学、コミュニケーション論 等							
人間と自然	生命科学、神経科学、環境科学 等									
人間と情報	基礎統計・情報処理、コンピューターと医療、ヒューマンロボティクス、日本語表現									
人間と言語	英語 A、英語 B、医療英会話、看護・医学英語、中国語									
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造Ⅰ 生理学Ⅰ	人体の構造Ⅱ 生理学Ⅱ 運動学 人間発達学	人体の構造演習 生理学演習 運動学演習						
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学 薬理学	病理学 神経内科学 整形外科学 摂食・嚥下機能学 精神医学 画像診断学 栄養学	小児科学 臨床心理学 リハビリテーション栄養学 予防リハビリテーション学	救急救命学 加齢と生活障害					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論 社会福祉学概論 関係法規	リハビリテーション医学	チーム医療と多職種連携論						
	基礎作業療法学	作業療法学概論	作業科学実習	作業科学	研究法	卒業研究				
専門教育科目	作業療法管理学			リスク管理学	地域保健マネジメント学	作業療法管理学				
	作業療法評価学	作業評価学総論	精神機能評価学 身体機能評価学	身体機能評価学演習 精神機能評価学演習 発達機能評価学 認知機能評価学						
	作業療法治療学			生活と作業療法学 生活と作業療法学演習 リハビリテーション工学 発達と作業療法学 義肢装具学	身体機能作業療法学 身体機能作業療法各論 ハンドリハビリテーション 精神機能作業療法学 精神機能作業療法各論 老年期作業療法学 発達と作業療法学演習 高次脳機能治療学	身体機能作業療法学演習 精神機能作業療法学演習 老年期作業療法学演習 認知機能と作業療法	作業療法セミナー			
	地域作業療法学			特別支援教育と作業療法 地域作業療法学	地域作業療法学演習 就労支援と作業療法					
臨床実習	地域見学実習		コミュニケーション実習	臨床実習Ⅰ 評価学実習	臨床実習Ⅱ					

ディプロマポリシー

【知識・技能】

- ・人々の健康の維持・増進、疾病予防、健康障害からの回復に向け、専門知識と技術に裏付けられたリハビリテーションを科学的根拠に基づき実施できる。
- ・常に知識・技術・態度を向上させようと研鑽する姿勢を身につけている。
- ・作業療法学・理学療法学を意識的に問い続ける姿勢を有し、研究に関する基礎的能力を身につけ、推進できる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人格や個性、価値観を尊重し、柔軟な思考で問題の本質を捉え、論理的に課題を解決できる。
- ・生の誕生から古い(死)までの多様なライフステージに応じた生活や行動を生体力学的及び心理生理学的側面から多角的に捉えて説明できる。
- ・作業療法・理学療法の実践において如何なる場合でも、作業療法士・理学療法士としての役割を倫理的に判断し、探求心をもって取り組むことができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・保健・医療・福祉に興味や関心を持ち、人に関わる現象を探索するために自ら行動を起こすことができる。
- ・社会及び地域のニーズを把握する知識と技術を有し、柔軟な協調性を身につけ、リハビリテーションを実践できる。
- ・地域における多様な考えやチームの中での自身の役割を理解し、多職種間連携がとれ、協働できる。

- ・一般病院
- ・総合病院
- ・回復期リハビリテーション病院
- ・介護老人保健施設
- ・福祉施設
- ・行政機関
- ・一般企業
- ・学校 など